

*Forestillingen om et ukompliceret liv med en mand*  
『ある男との平凡な生活についての空想』  
～現代デンマークのミニマルな物語を読む～

デンマーク語専攻 久保田真由

目次

1. はじめに
  2. 作家紹介
    - 2.1. 作家略歴
    - 2.2. 執筆スタイル
      - 2.2.1. ミニマリズム
      - 2.2.2. 作家 Helle Helle と執筆スタイル
  3. 作品紹介
    - 3.1. あらすじ
    - 3.2. 人物相関図
    - 3.3. 先行研究紹介
  4. 登場人物の役割
    - 4.1. 焦点人物
    - 4.2. 周囲の人物
      - 4.2.1. 恋人 Kim
      - 4.2.2. 友人 Ester
      - 4.2.3. その他の登場人物
  5. 物語に用いられるイメージ
    - 5.1. 三つの空想
    - 5.2. 「傘とレンガ」のメタファー
    - 5.3. 物語の始まりと終わり
  6. まとめ
- 使用テキスト  
参考文献  
インターネット上の資料

## 要約

本稿は女性作家 Helle Helle の *Forestillingen om et ukompliceret liv med en mand* 『ある男との平凡な生活についての空想』の原文を分析することによって、小説の中での登場人物の役割を考察し、作者が物語に込めたメッセージに迫るものである。同時に Helle Helle の魅力を日本の読者に伝え、「幸せの国」と言われるデンマークに暮らす人々の生活に焦点を当てる意義がある。

第一章で本論文の意義について述べ、導入とした。第二章では、Helle Helle について紹介した。インタビューを参考に、彼女の人生を簡潔に示し、特徴的な執筆スタイルであるミニマリズムについてまとめた。また彼女は自身の人生経験から得た気づきを執筆活動に活かしている。例えば、彼女の育った地域特有の話し方の一つに、調子はどうか尋ねられると、その時何をしているかを答え、間接的に気分を伝えようとする話し方がある。この話し方は、登場人物の行動や会話のみを描き、心情を間接的に示すミニマリズムの書き方と関連づけられる。またラジオ局での仕事から学んだ、最初の 30 秒間でリスナーの心を掴む大切さを活かし、小説の最初の文に工夫を凝らす。続く第三章で、『ある男との平凡な生活についての空想』のあらすじ、人物相関図を示し、先行研究を紹介した。

第四章から本論に入り、行動描写やセリフを引用しながら、主要な登場人物の性格や物語での役割について考察を行った。主人公で、焦点人物の Susanne は、職場でも日常生活でも孤独を抱え、過ぎるままに毎日を生きる女性であると述べた。具体的には、病院の清掃や調理の仕事に従事し、医師や看護師との間にあるお互いにわかり合うことのできない「溝」について読み取ることができる。また個人のアパートの清掃を通して、刺激的な他者の生活を垣間見る Susanne の様子が描かれ、平凡な Susanne の生活を強調する効果があると分析した。Susanne と親しい人物としては、恋人の Kim と友人の Ester のみが登場し、人間関係が希薄であると読み取ることができる。次に恋人 Kim と Susanne の関係について考察を行った。二人は恋人同士でありながら、教養や正しい言葉づかいに関する考え方の違いでよく口論する。Susanne は肉体的で作業的な仕事に従事する一方で、Kim は作家を夢見て頭を使って小説を書いており、対照的な二人の関係性がよく表現されている。次に友人 Ester と Susanne の関係について示した。Ester は Susanne とは対照的に、職場や趣味など外部との繋がり

を大切に過ごしている。Susanne の唯一の友人である Ester だが、Susanne は完全に心を開いておらず、二人のちぐはぐな関係性を読み取ることができる。その他、小説内の特徴的な音や外見の描写についても分析を行った。

第五章で小説に含まれるメタファーについて触れた。まず Susanne が平凡な日常生活の慰めにしている三つの空想について分析した。Susanne は恋人 Kim とともに家族など外部との繋がりを大切にし、小説家を目指す Kim の恋人にふさわしい教養を身につけ、アパートの内装に気を使う生活に憧れていると結論づけた。小説全体を通して空想と現実が意図的に混ぜられていて、空想と現実の境界の曖昧さについて読者に訴えかけていると考えた。次に小説の中で重要と思われる「傘とレンガ」のメタファーについて述べた。傘とレンガは材質も用途も異なる異質なもの同士であり、Susanne と恋人 Kim のちぐはぐな関係性をよく表すメタファーである。また傘の「守る」イメージと、レンガの「支える」イメージから、二人はお互いに支え合って生きているということを示唆しているとも言える。さらに物語の最初と最後に同じレンガが登場し、現実世界と小説の世界をうまく繋ぐ効果がある。最後のシーンでは、Susanne と Kim の関係性が最初に比べて改善しており、閉じられたドアを開くストッパーとして描かれる「レンガ」が殻を破った二人の関係を暗示していると分析した。

第六章で論文全体のまとめを述べた。小説全体を通して二項対立と考えられる多くの要素が含まれる。「人との繋がり」と「孤独」、「肉体的、作業的な労働」と「頭や知識を用いる仕事」、「田舎暮らし」と「都会暮らし」、そして「空想と現実」つまり「虚構と現実」と言い換えることもできる。「虚構と現実」が小説の最も大きいテーマだと考えると、この小説は現実と虚構の境界線がますます曖昧となった現代社会に対する問題提起だと捉えることもできる。2000年代以降の新しいリアリズムである新リアリズムは、どのように現実を理解すれば良いのか、現実とは何か、現実と虚構の境界はどこかという問題について読者に質問を投げかける。この小説はミニマリズムの形式で書かれた小説であるだけでなく、新リアリズムのテーマを含む小説であるとも言える。誰でも簡単にメディアを通して自分を発信できるようになった現在、現実と虚構の境界がさらに曖昧となっている。例えばカメラを通した現実は本当に現実だと言えるであろうか。そのような現代社会に生きる私たちに、現実とは何かについて考え直すきっかけを与える小説であると結論づけた。